













学位論文審査の結果の要旨

氏 名	中嶋 香織									
審 査 委 員	<table><tr><td>主 査 教 授</td><td>中島 千晴</td><td rowspan="4">   </td></tr><tr><td>副 査 教 授</td><td>名田 和義</td></tr><tr><td>副 査 教 授</td><td>奥田 均</td></tr><tr><td>副 査</td><td>三重大学大学院生物資源学研究科 名誉教授 平塚 伸</td></tr></table>	主 査 教 授	中島 千晴	   	副 査 教 授	名田 和義	副 査 教 授	奥田 均	副 査	三重大学大学院生物資源学研究科 名誉教授 平塚 伸
主 査 教 授	中島 千晴	   								
副 査 教 授	名田 和義									
副 査 教 授	奥田 均									
副 査	三重大学大学院生物資源学研究科 名誉教授 平塚 伸									
論 文 題 目 (題目変更の有無) 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	三重県における園芸作物病害の発生生態の解明と対策に関する研究 (Studies on epidemiology and control of plant diseases on horticultural crops in Mie Prefecture, Japan)									

(論文審査の結果の要旨)

本論文は三重県内にて発生する園芸作物の病害に関して、発生状況を明らかにするとともに、その防除技術の確立を試みたものである。

カンキツに発生するウンシュウ萎縮ウイルスによって引き起こされる土壌伝染性の温州萎縮病の発生状況について、県内各地の69圃場を調査し、うち43圃場にて発生を確認した。また、その原因ウイルスの系統を明らかにすることを試み、カンキツモザイクウイルス系統が多くを占め、次いで温州萎縮ウイルス系統が多いこと、またネーブル斑葉ウイルス系統が存在することを明らかにした。さらには台木として用いられるカラタチ実生苗を使用して土壌伝染性を確認した。

また極早生ウンシュウ‘みえ紀南3号’普及のため、3種のウイロイド(ホップ矮化ウイロイド、カンキツ矮化ウイロイド、カンキツウイロイドVI)の無毒化が必要となったが、茎頂接木により、効率良く無毒化する技術を確立し、普及のための大きな貢献をした。

さらにはトマトの葉枯性病害である葉かび病防除に有効な各種薬剤に対する抵抗性系統の調査を実施し、SDHI剤に対して抵抗性を有する系統が出現していることを明らかにし、さらに使用履歴の無い複数の薬剤に対し交差耐性を生じていることを明らかにした。

ムギ類赤かび病について、13年間にわたり三重県で実施された圃場調査より、MBC耐性菌が出現していることを、培養株を用いた生物検定とSNPによる分子生物学的手法を用いて明らかにした。また、これらの抵抗性系統の変異が日本国内の他の地域とは構成が異なることを明らかにし、これが三重県で実施されている2年3作体系によるものであることを考察している。

審査内容と審査委員会の判断

申請者の提出した論文は、審査委員全員が精査した。十分な基礎的及び専門的知識に裏付けられ、県内の重要作物の病害防除という明確な目的を示しており、学位論文として妥当な内容である。また、圃場調査、野外・室内実験を組み合わせた適切な研究方法、実験計画が立案されており、得られた結果に対して妥当な分析と考察が論理的になされている。一部は権威のある国際学術雑誌に論文として投稿中であり、原稿を確認したところ学術的な新規性や価値とともに、十分な外国語能力を有していた。

結論

審査委員会は本論文が学位論文に値するものと判断した。